

第97号

2020年1月

# 風

発行

群馬県生協連女性協議会

群馬県前橋市大手町3-19-3

「風」はホームページでもご覧いただけます

<https://gunma-ccu.jp/>

メール: [post@gunma-ccu.jp](mailto:post@gunma-ccu.jp)

## 新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。昨年は平成から令和へと元号が変わり、皆さま方におかれましては新しい気持ちの中、新年をお迎えのことと思います。

日頃より、女性協議会の活動にご理解とご協力をいただき心から御礼申し上げます。

昨年の女性協議会の活動としては4月に、会員生協活動交流会で認定 NPO 法人ひこばえ理事長茂木氏の講演をお聴きし、DV被害の実状と女性がおかれている厳しい現実を知ることとなりました。

また6月の総会におきまして運営委員2名の交代、そして北毛保健生協より新たに委員を迎えることができ、充実した活動を行う事ができました。

11月には会員生協活動交流会を行い、国立女性教育会館 櫻田今日子氏、丹羽麻子氏をお迎えしSDGsの観点から改めて男女共同参画の重要性を学ぶことができました。

また、会員生協間の交流も行い昨年は、はるな生協と群馬中央医療生協と懇談を行いました。

年々少子高齢化が加速し日々社会情勢も変化するなかで、設立27年目を迎える女性協議会としては設立当初の目的である「男女共同参画の視点のもと、地域、家庭、職場にて誰もが安心して幸せに暮らしていける社会」を目指して今年一年間も学習会、視察等で皆様とともに学びあって行きたいと思っております。

男女問わず一人ひとりの能力が発揮できる社会の実現のため、運営委員会としても会員生協との交流を深めながら委員一同協力しあい、活動を広げていきます。

今年も皆様方のご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

県連女性協議会会長 女屋美由紀(コープぐんま)

6月29日(土)

## 群馬県男女共同参画センター登録団体交流会

6月29日(土)ぐんま男女共同参画センターで開催された、ぐんま男女共同参画センター登録団体交流会に、県連女性協から出席しました。31登録団体の内、県人権擁護委員連合会、県くらしの会連絡協議会、ぐんま女性議員政策会議など、21団体32名が出席し、池畠ちあき参画センター所長挨拶の後、6つのグループに分かれて意見交換しました。

テーマは「他の団体や県と協働して実施してみたい事業について」でした。グループ発表では、社会的な話題を多くの人に発信する必要性や、家族の問題や子供の相談ができたらいい等々意見がだされました。また、生協は安全安心の商品開発を行っており、SDGsを実践しているなどの意見もだされました。そして、最近では地震や大雨などの災害が頻発しており、定期的な防災訓練もしてほしいとの要望がありました。

参画センターが提案する講座には、「乳幼児の救急対処法」「片付けセミナー」「保護者向けケータイ・スマホの安全教室」「定年後の夫婦関係をよくするコツ」など、専門知識や実用的なものがあります。講師も多彩であり、毎年数団体が講座やセミナーを開催し利用しています。講演会や講習会の予定がありましたら、参画センターにご相談してくださいとのことでした。

県連女性協議会副会長 藤原京子(利根保健生協)



11月6日(木)

## 会員生協活動交流会

～一人一人が大切にされる社会とは～



櫻田講師

県連女性協議会主催の会員生協活動交流会を11月6日(水)にぐんま男女共同参画センター大会議室で開催しました。当日は、6会員生協・県連から32名が参加し学習と交流を深めました。活動交流会は今年度2度目の開催となります。

講師には独立行政法人国立女性教育会館 総務課長 櫻田今日子氏と同会館事業課専門職員 丹羽朝子氏をお招きし、「SDGsと男女共同参画～男女ともに地域社会とのつながりを促進するには～」と題して講演していただきました。

櫻田氏からSDGsに関する基本的な内容の講演をいただいた後、丹羽氏が男女共同参画の視点で考える防災について、実際の事例などを紹介しながら分かりやすく解説されました。

午後からは運営委員の進行により5グループに別れ、男女共同参画とSDGs、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見・思い込み)をテーマに設問を設定し、クロスロードゲーム形式

で、グループ交流を行いました。その後、各グループから交流内容の発表がされ、全体の意見感想を受けて、講師によるまとめがおこなわれました。初めてのクロスロードゲームに皆さんも驚き、改めて気づきのひとつとして体験されたのではないのでしょうか。

県連女性協議会運営委員 吉田寿美子(はるな生協)



丹羽講師

11月6日(木)「会員生協活動交流会に参加し、基調講演では「SDGsと男女協同参画～一人一人が大切にされる社会とは」を櫻田さん、「男女協同参画で考える防災」を丹羽さんにお話しいただきました。

SDGsの取り組み17の開発目標の中にある多様な考えの中、共存して社会作りを進めていくことの重要性が語られました。

防災時には、自助・共助・公助を上手く回す為にもダイバーシティ(多様性)の視点から地域の「力」を合わせて協働していくことが大切であり、誰1人取り残さないためにも性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮出来る社会作りの大切さがわかりました。

午後からは各グループに分かれクロスロードゲームの形式で分散会を行い、各々の設問に皆さん真剣に向き合い、YES・NOそれぞれの答えに考え方の違いを知り、楽しみながら交流会を進めることが出来た1日となりました。

県連女性協議会運営委員 新井安子(コープぐんま)

### 持続可能な開発目標「SDGs」とは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本政府も積極的に取り組んでいます

会員生協活動交流会に参加し、「SDGsと男女共同参画～一人一人が大切にされる社会とは～」というテーマで、地域社会とのつながりについてSDGsを軸に考え、災害対応教材クロスロードゲームを通じて参加者で交流を深めました。

基調講演では「性別に関わりなく、その個性と能力を充分発揮できることが男女共同参画につながる」という点が印象に残っています。

「男女共同参画の視点で考える防災」では、災害に強い地域社会を作るには、性別・年齢・国籍・障害や傷病の有無・家族構成にとどまらず、個々の価値観や事情も含めて多様性を理解し、それぞれが協働していく視点の重要性を学びました。

SDGsへの理解が深まり、自分ができていることを考える良い機会になりました。



湯根留里子さん(生活クラブ生協群馬)

11月13日(水)

## 群馬中央医療生協との懇談会

11月13日(水)に群馬中央医療生協との懇談会を行いました。懇談に先立ち、前橋協立病院の阿部事務次長の案内で病院内を見学しました。参加者からは「組合員に寄り添った病院だと感じた」など感想が出されました。



懇談会では最初に群中医療生協の岡田専務よりご挨拶を受け、女屋女性協会長が開会のあいさつをして懇談に入りました。次に長谷川常務が組合員活動の特徴として、群馬県が募集した前橋市広瀬町第二県営住宅地域開放スペース事業の運営事業者として選定を受け、無料学習支援「ひろせ川教室」と高齢者の安心の居場所「お茶のみ保健室」を移転したことが紹介されました。続いて、川島総務部長から女性職員の状況について報告を受けました。職場責任者は女性比率が高くなっていますが、管理職は男性比率が高く、家庭を持つ女性が管理職につきやすい職場環境にすることが課題であることがわかりました。女性が働きやすい職場環境整備では、群馬県いきいきGカンパニーにも認証されているとのことでした。

各委員から質問や感想が出され、最後に藤原副会長の閉会あいさつで懇談会が終了しました。

県連女性協議会運営委員 甫仮文子(群馬中央医療生協)



今回、初めて生協関連施設見学に参加させていただきました。病院を中心に、特別養護老人ホームなど多くの関連施設があるのが印象的でした。病院の外観をじっくり眺めると、長きにわたり患者を支えてきた歴史の重みが伝わってきます。

病院内の施設見学も大変勉強になりました。特に地域包括ケア病床のシステムにおいては、重度障害の患者さんが安心して治療に専念できるように、近隣の日赤病院と連携し、互いに情報共有しながら患者さんに寄り添った治療をされているとお聞きし「生協ならではの医療だ」と実感した次第です。

居場所づくりの積極的な活動姿勢にもパワーをいただき、充実した見学・懇談会でした。

県連女性協議会運営委員 石田靖子(北毛保健生協)



懇談では当生協が「一人ひとりのいのちが大切にされ、平和と人権が尊重されるまちづくり」への貢献」という理念にもとづいた活動として、無料低額診療事業や無料学習支援、高齢者のための安心な居場所づくりなどに取り組んでいることを知っていただけたのではないかと思います。

医療機関や介護事業所では女性職員が多いことから、これまでも環境整備をすすめてきていますが、今回の懇談を通して、法人としてまだまだ課題はあるということを確認されました。また、女性が働きやすい社会にしていく必要があることもあらためて実感しました。

群馬中央医療生協 常務理事 長谷川敦子さん